

水の描写を細かい所まで手掛けました。水の美しさを表すには、どこに力を入れて目立たせるのかということを考えて描きました。
手前はぼかし気味にして、見せたい所はガツンと手を加えました。



「水流」 第26回高校生国際美術展 優秀賞

全国から1464点の応募があり、優秀賞は上位19点に該当する賞です。東京の国立新美術館に展示されました。

流れを掴む。

ここに注目!

決算審査報告

今月の
はさみの人

よし むら も なみ
吉村 萌南さん
波佐見高校 美術・工芸科 2年
(早岐中学出身)



はさみ



No.173 令和7年11月号



議会情報

議会だより



波佐見町議会 議長
尾上 和孝

議長あいさつ

秋風が心地よい季節となりました。さきの9月定例会では、令和6年度の決算を審査し、一般質問では11名の議員が町政を質しました。各議員の意見や要望が町政諸般の施策に生かされるよう望むところです。

さて、県内を見渡せば、随所で「ながさきピース文化祭2025」が開催されています。

9月12日、長崎市で行われた天皇皇后両陛下、そして愛子様をお迎えする提灯奉迎の集いに参加いたしました。ホテルにお着きになられた折には奇跡のように虹がかかり、会場にいた一同が感激しました。この日、県庁の屋上広場では県民が掲げた、およそ5,500個もの提灯の温かい灯りが広がり、両陛下を歓迎いたしました。

さらに9月14日には、天皇皇后両陛下のご臨席の中、アルカスSASEBOにおいて開会式が行われました。今年は終戦・被爆から80年という節目に当たることから、平和へのメッセージが色濃く表現されており、平和の尊さを改めて考える貴重な機会となりました。

本町でも、10月に全国人形芝居フェスティバルが開催され、現在も「波佐見町講堂・音楽フェスティバル」が開催されています。文化祭は11月末まで県内各地でさまざまな催しが行われていますので、ご家族やご友人とぜひ足を運んでみてください。

なお、かねてから募集しておりました議会モニターについては、8名の方に委嘱状を交付いたしました。今後、皆さんには議会を注視していただき、ご意見を伺う予定です。

窯業界との意見交換会レポート

8月26日、窯業界の各代表者と窯業界が直面する課題について意見交換を行いました。議論された主なポイントをお伝えします。

【窯業界の厳しい現状】

- **資材・燃料の高騰**：陶土が25%値上げされたほか、燃料費や人件費も上昇しており、窯業界の経営を圧迫しています。これにより、製品価格の値上げは避けられない状況です。
- **消費者動向の変化**：物価高騰の影響で、消費者はより安価な商品を選ぶようになり、量販店に市場を奪われています。また、大手流通事業者からは値上げに難色を示されており、価格転嫁が難しい状況です。
- **人手不足と後継者難**：業界全体で人材や後継者の不足が深刻化しており、特に70歳以上の個人事業主が多い生地組合では、10年以内に事業者が半減する見込みです。
- **生地・部品の供給課題**：生地の生産が需要に追いついておらず、他産地に注文が流れる懸念があります。また、筆やコテなどの製造部品を供給する事業者の廃業も相次いでいます。

【今後の取組み】

窯業界では、現状を打開するために協議会を立ち上げ、課題解決に向けて団体間で意見集約を進めていく方針です。今後は、新商品開発や海外展開も視野に入れ、業界の立て直しを図っていく考えです。

議会と窯業界は、今後も定期的に意見交換を行い、必要な支援策を検討していく予定です。



天草陶石の採掘現場

6月30日に、総務課の所管事務調査を行いました。

【防災対策について】自治会からの要請を受け、総務課が中心となり災害危険箇所の現地調査を実施した。危険箇所は多岐にわたり、町や県が対応するもの、経過観察となっているものがある。

【空き家対策について】令和3年の調査では、町内の空き家は205件あり、そのうち22件が危険空き家として確認された。令和7年度に再調査の予定。なお、令和5年には「波佐見町空家等対策条例」が策定され、緊急時に町が危険な空き家を除去できる「緊急安全代行措置」が可能となっている。

所見

1. 防災対策について

災害危険個所の対応について、個人所有の裏山等が大半を占めており、長年経過観察中となっています。今後の台風、大雨による災害が心配です。

2. 空き家対策について

今後、人口減少によって空き家が増えてくるものと推察されます。

空き家の改修・利活用などの対策について、総務課と企画情報課で連携して進めていただきたい。また、特定空き家の対策についても、人命に危険が無いよう危機管理に努めてもらいたい。

6～8月にかけて、4つの部局について所管事務調査を行いました。

【水道課】水道管の老朽化が進んでおり、耐震化されたのは全体の13%程度。全てを更新するには約50年かかる見込み。また、異常気象に備え、ため池や地下水の活用を進めている。高齢者見守り活動と検針業務の連携も行われている。また、浄化槽の普及には支援制度の見直しが課題。

【施設整備室】教育施設を中心に、LED照明や空調の改修などが行われている。また、郵便局周辺の歩道整備や信号機の新設も進められている。今後は、町民の安全や利便性向上に直結する部署として、横断的な活用が期待される。

【農林課】米の作付け面積はほぼ横ばいであるが、高齢化などで縮小傾向にある。経営安定のため、飼料用米などの導入が進められている。また、農林業補助金は、スマート農業や省エネ機材の導入にも活用される方向で検討されているが、補助金の上限額が課題。

【建設課】人口減少に対応するため、居住区域と都市機能区域を設定する「立地適正化計画」を策定中。住民アンケートの結果も反映し、来年度には公表する予定。

所見

今回の調査を通じ、生活基盤を守る水道事業、町民生活に密着した施設整備、地域農業を支える補助制度、将来の町の都市構造を描く計画と、各分野での重要課題が明らかとなりました。

委員会としては、持続可能な事業運営と町民目線に立った施策が進むよう、今後も議論と提言を重ねてまいります。

決算審査報告

決算特別委員会 委員長 北村 清美

令和6年度波佐見町一般会計他6件の決算について、9月10日より都合4日間かけ議員全員で質疑と審査を行い、全会一致で認定すべきものと決定しました。しかしながら、本町の実質公債比率が東彼地区保健福祉組合の負担金増額の影響により悪化。財政力指数も年々悪化傾向にあり、財政基盤の安定性に乏しい財政構造となっています。また、歳出では社会保障関係費の増加で厳しい状況が見込まれます。このままだと、住民サービス総量抑制をせざるを得なくなります。そのためには稼ぐ波佐見町を目指し、事業評価と断捨離を実行し、メリハリをつけた予算編成にあたってもらいたいと考えます。

Q

環境美化作業員の日報の提出や作業現場の確認体制は。

A 作業前後の全てを確認するのは難しいが、今後は写真等で確認するなどして管理体制を整えたい。

Q

「保育充実人員配置支援事業」の目的に反し、一部の園で待機児童数が増えた理由は。

A 小学校区を見据えて園を希望された方が多かったため。

Q

各学校に設置されているウォーターサーバーの消費量が生徒数に比例していない。

A 中学校と東小学校では水道水に錆が出ており、熱中症対策を兼ねて全校に設置した。使用方針が異なっているので、統一を図る。



Q

公民館活動指定事業は4巡した。評価と今後の予定は。

A 自治会からはやめてほしいという意見もあるが、負担にならない形での継続実施を考えている。

Q

情報システムの維持費が大きい。業者選定の方法は。

A 継続利用分は基本的に1社随意契約。新規の場合はプロポーザル方式で業者を選定している。

Q

観光協会には多数の事業を委託しているが、年間の支出総額は。

A 補助金と委託金を合わせた総額は、40,357,000 円となる。

観光協会が管理するキャンプ場▶



Q

夜間納税相談の件数と具体的な相談内容は。

A 毎月 1、2 件の相談がある。相談者の状況を考慮し納付提案をしている。

Q

水道料金未納による、給水停止状況はどうか。

A 給水停止は 3 か月ごとに行っている。年間 40 件ほどあるが、再び開栓するケースがほとんどである。

Q

新庁舎建設事業に伴う総事業費は。

A 庁舎本体工事費 15 億円に、外構工事費、こども家庭センター改修工事費、システム導入費を加えると、総額は約 26 億円になる。

Q

道路改良等に対する要望への対応状況は。

A 概ね要望に対応し工事に着手できている。今後も、利用状況や危険度など実態に応じて対応したい。

Q

小規模農林事業のうち、申請件数が多い事業については、補助率を見直すべきではないか。

A 利用が多い事業では、補助率など具体的に見直しを検討したい。

農業用の用水路▶



9月
定例会

11人が登壇 一般質問

一般質問の議員別動画は、
こちらから。9月定例会の
動画リストが表示されます。



ページ	議員名	質問項目
7	おかむら たつ ま 岡村 達馬	・波佐見町地域防災計画 ・町の民生委員・児童委員の改選と活動
8	たぞ え ゆう き 田添 有喜	・公共施設の管理・運営 ・町が所有する草刈り機械 ・部活動の地域移行
9	じょうご ひかる 城後 光	・波佐見焼産業と町の関わり方
10	さわ だ あきのり 澤田 昭則	・経営者の実情に即した町の支援 ・東小学校に関する今後の総合的な計画 ・観光地域づくりに向けた取組み
11	よこやま まさ よ 横山 聖代	・高校生支援の充実
12	おかむら ま ゆ み 岡村真由美	・米の増産と渇水対策 ・「絆の日」の継続 ・県への要望書提出

ページ	議員名	質問項目
13	まえ だ ひろ じ 前田 博司	・水道事業
14	わきざか まさたか 脇坂 正孝	・町政施行70周年記念行事 ・利用が休廃止された農業用水路の安全管理
15	ふく だ かつ や 福田 勝也	・自治会活動 ・公共施設の整備と管理運営
16	みつし たかし 三石 孝	・事業評価
17	きたむら きよ み 北村 清美	・本町の400年続く重要な地場産業である「波佐見焼」 ・「限界自治体」とならないための警鐘

審議された案件

議案
28件

諮問
1件

報告
2件



議案等別審議
結果はこちら

提出された案件は、全会一致で可決および認定されました。

			審議の結果
8月 臨時会	補正 予算	■ R 7 一般会計（第3号）	原案可決
		■ R 7 一般会計（第4号） ■ R 7 特別会計：国民健康保険（第1号）、後期高齢（第1号）、介護保険（第1号） ■ R 7 公営企業会計：上水道（第1号）、下水道（第1号）	原案可決
		■ R 6 一般会計 ■ R 6 特別会計：国民健康保険、後期高齢、介護保険	認 定
	決算 認定	■ R 6 公営企業会計：上水道、下水道、工業用水道	承認及び認定
		■ 乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例 ■ 町長等の損害賠償責任の一部を免責する条例の改正 ■ 職員の育児休業等に関する条例、波佐見町企業職員の給与に関する条例の改正 ■ 職員の勤務時間、休暇等に関する条例の改正 ■ 議会議員、町長の選挙運動の公費負担に関する条例の改正 ■ まちづくり基金条例の改正 ■ 庁舎建設基金条例を廃止 ■ 有福塾教育振興基金条例を廃止 ■ 公共施設等整備基金条例 ■ 印鑑条例の改正 ■ 自家用有償バス条例の改正 ■ 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営基準の条例等の改正	原案可決
	契 約	■ 防災行政無線再整備工事請負契約の変更 ■ 体育センター空調機設置工事請負契約の変更 ■ 林道虚空蔵線他1地区災害復旧工事請負契約の変更	原案可決
	人 事	■ 人権擁護委員候補者の推薦（1名）	異議なし
	報 告	■ 令和6年度波佐見町一般会計予算事故繰越し繰越計算書の訂正 ■ R 6 決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率	
9月 定例会			

防災計画15,000人の根拠は



岡村 達馬 議員

町長 前々回の国勢調査

今年6月に町の地域防災計画書が策定された。町の防災体制整備と充実を図り、住民の生命、身体および財産を守ることを目的としている。

議員 町民の人口数値把握については災害時の被災者確認、支援物資確保、救援物資の算出根拠となるものだ。示されている表や逡減の表示から14,000人とするべきではないか。この人口15,000人はどこから出てきたものか。

	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
総人口	14,606	14,536	14,381	14,225	14,125	14,039
世帯数	5,229	5,270	5,311	5,367	5,479	5,535

資料：住民基本台帳（各年度3月31日現在）

地域防災計画で示す人口推移

町長 現状と合っていないなら見直したい。

議員 本町の地震対策については一番近い大村ー北諫早の断層から10kmしか離れておらず、震度4の予測。佐世保直下型では震度6が予測されている。対応・対策を見直すべきではないのか。

町長 本町では揺れや液状化による建物被害、人的被害は特に発生しないとされている。

議員 公共的団体、防災上重要な施設の管理者の中の九州農政局は入っているが、九州地方建設局が入っていないのはなぜか。

町長 入っていない具体的な経過は分からない。

議員 土砂災害予防で区域等が713地区定められている。そのうち著しい危険が認められている地区が687とある。戸数と場所を示すべきだ。

町長 指定は県が行う。町は戸数までの把握はしていない。危険箇所かどうかは各々の住民が確認をするべきだ。

議員 水防器具資材備蓄において、東地区水防倉庫、南地区水防倉庫に大きなばらつきがある。備蓄する資材の基準はないのか。

町長 全体的な見直しを行う。

■水防資材等保有数一覧表（令和7年4月現在）

種 類	現在保有数量	
	東地区水防倉庫	南地区水防倉庫
ビニロン袋土のう	1,400 袋	200 袋
鉄杭	100 本	120 本
ブルーシート	140 枚	10 枚
ロープ	400m	200m
丸太		250 本
揚矢（かけや）	12 丁	12 丁
スコップ	12 丁	19 丁
ハンマー	8 丁	24 丁
鉄線	2 kg	2 kg
斧	15	15
鎌	15	15
ノコギリ	15	15
照明灯	2 基	1 基
土のう	100 個	10 個

町の水防倉庫の実態

民生・児童委員の制度は、100年を超える歴史と実績のある制度である。今年の12月には新たな委員さんが改選される。

町の社会福祉行政にも大いにかかわった業務で大変なご苦労にもかかわらず、その活動はあまり認識されていない。

議員 近年は70歳を超えた高齢者でも多くの方が働いており人選にも大変苦労されている。31名が受け持たれている世帯数と住民の最大・最小数はいくらなのか。

町長 最小数で45世帯、115名。最大数で330世帯、860名。地区割で均等になっていない。

議員 委員の活動では、プライバシー関係で地域や町で共有できないことが多い。対応や指導はどうしているのか。

町長 住民異動情報を提供し、地域の世帯表等を作成していただいている。



防災計画書は町民の命と財産を守っているが、人口15,000人は10年前の国勢調査で切っている。今は14,000人を切る寸前であることを認識するべきだ。





部活動の地域移行の時期は

教育長

令和9年度の完全移行を目指す

田添 有喜 議員

本町の公共施設は、その管理を民間団体等に委託している。公共施設は、利用者が安心かつ安全に利用できるよう環境整備が必要である。

議員 公衆トイレの管理状況は。

町長 町が管理している公衆トイレは16か所ある。管理については、シルバー人材センターやトイレ設置場所近くの個人に委託し、週2、3回の頻度で維持管理を行っている。



稗の尾河川公園のトイレ

議員 総合文化会館の管理状況に問題はないか。

教育長 昨年1月から総合型地域スポーツクラブ「ルピナス」に管理業務を委託している。管理体制移行に伴い対応についての指摘や施設の老朽化に伴う課題もある。管理団体と教育委員会が連携を密にし、課題解決に取り組む。

議員 玄関ホール内に「学習スペース」を設置しているが照度不足では。一般的に玄関ホールの照度は100ルクス程度、教室の照度は、学校保健安全法で500ルクス程度が望ましいとされているが。

教育長 今後、協議し対応を考える。

農業従事者や各地区の自治会は、草刈り作業にかなりの労力と時間を要している。また、増加する耕作放棄地の対策などの課題もある。

議員 町が購入した草刈機の貸し出し状況は。

町長 今年度、自治会等が行う河川沿いや生活用水路等の草刈り作業の支援として、3台の草刈り機を購入した。大型のラジコン式については11月下旬に納品予定。借用実績は、8月28日現在、乗用草刈機7件、ラジコン型草刈機9件である。

議員 草刈り機を貸し出す上での課題や問題点は。

町長 台数に限りがあるため、土日祝日の自治会間の受け渡しについて調整が必要。今後は、借用可能な平日を設けていく。

教職員の働き方改革として、処遇改善や令和8年度から中学1年生の35人学級編成などが進められている。しかし、部活動の地域移行については課題も多く、その解決に向けた協議に時間を要していると聞く。

議員 部活動の地域移行は、どこまで進んでいるのか。

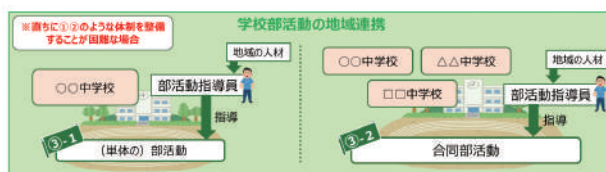
教育長 昨年12月19日に波佐見中学校スポーツ文化育成協議会を設立した。令和7年1月からサッカー部と柔道部が地域移行を先行し、クラブチームに移行した。

議員 部活動の地域移行に対する今後の取り組みは。

教育長 国が示す「改革推進機関」に沿って、令和8年度の完全移行を目指してきた。しかし、郡市の予選会の方法や国の改革推進期間（令和8年度から6年間に変更）の見直しなどの課題が明らかになり、協議を重ねた結果、令和9年度の完全移行を目標とした。

議員 本町は、部活動の地域移行とクラブチームへの移行のどちらを目指すのか。

教育長 部活動の地域移行を目指す。ただし、チーム編成ができない場合は、東彼3町で合同チームの編成を考えたい。



部活動の地域連携図

議員 なぜサッカー部は、クラブチームに移行したのか。県中総体の出場は、クラブチームの予選会で優勝した1チームのみとなる厳しい選択と思うが。

教育長 関係者（生徒・保護者等）で協議し決定したことなので、教育委員会としてはそれを尊重した。



部活動の地域移行は、部活動の考えを継承した地域移行を望む。クラブチームへの移行となると何かと課題（移動時間、経費、練習場所等）が多いのでは。



波佐見焼再構築の計画策定を

町長 業界と意見を交わしていきたい

城後 光 議員



各種資源価格高騰、8月1日の陶土価格の25%値上がり、人件費高騰による担い手不足、食費高騰による食器需要の減少など、波佐見焼産業を取り巻く環境は日々厳しさを増している状況にある。

議員 波佐見焼産業全体の現状をどう捉えているか。

町長 原材料、人件費高騰、販売先からの提供価格を上げることに対する厳しい評価など、急速に厳しくなっている。加えて生地製造者の後継者不足も影響は顕著になっている中で、8月1日に陶土価格が値上げされるなど、様々な課題が事業者而降りかかっており、町だけではなく県・国と連携しながら対策に当たらなければ、この局面を打開できないと考えている。

議員 波佐見焼産業については諸々の課題があるが、直近解決を図るべき問題として商品流通をより良くするための課題は何か。

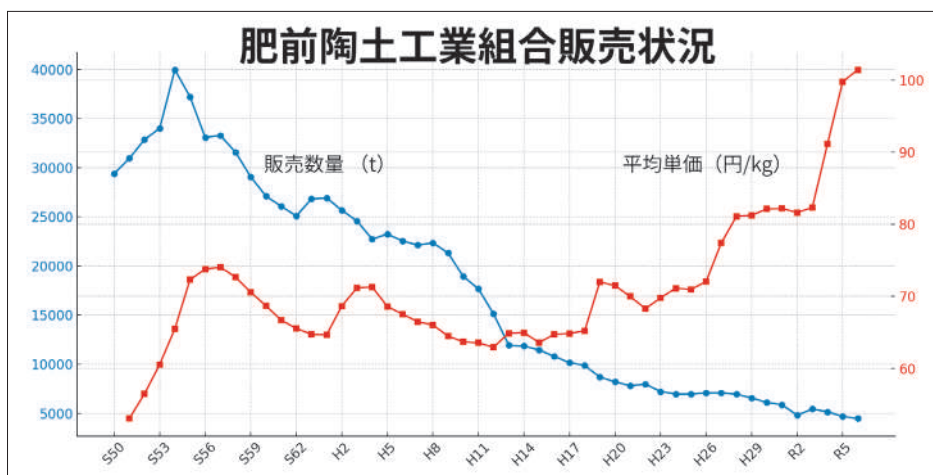
町長 根本的にあるものとしては、生地の調達にあると考えている。注文に対して生地事業者が不足している状況で、納期がかかる状態になる点を解決するための対策を取る必要がある。また、他産地に代替されないような新商品を継続的に提案できる環境づくりについても、競争力確保のためには必要不可欠であると考えている。

議員 波佐見焼が産業全体としてどの程度の危機的な状況にあると考えているか。

町長 窯業界の課題というものは非常に大きく、もう立ち行かなくなる程度の危機感があると思っている。特に、材料となる陶石の確保については、本町や県だけでも対策には限界があるため、国や関係する自治体への働きかけも含めて進めていかなくてはならない。

議員 前川町長の任期も残り1年余りとなった。任期中に、今後の窯業界の方向性を示すべきではないか。

町長 どの程度具現化できるかは時間的制約もあるが、一定の波佐見町窯業のアクションプランについては業界と行政が専門家を交えて形作っていかねばならないと考えている。業界との意見交換を行なっていきたい。



販売状況と販売価格推移



担当課長、副町長、町長との危機意識共有はできた。具体的対策に繋げたい。





プレミアム商品券の一次販売額は

町長 1億8,678万円

澤田 昭則 議員

本町においても人口減少や担い手不足などが課題であり、近年の物価高騰など社会情勢は刻々と変化している。これらの動きに対して適正かつ迅速な対応が求められている。

議員 「農林業経営支援事業費補助金」は予想を上回る反響で申請が多数寄せられ、2度の補正予算が計上された。そこで、地域商工業の振興と活性化、経営継続を目的とした同様の支援ができないか。

町長 農業者と同様の支援を地域の商工業者全体へ展開する方向で検討を進めることは、業種横断的に多様な事業者を対象とする場合、財源的にも現時点では厳しい。今後においても商工業者へ一律支援を行うというよりは、経営改善や強化、業務効率化に取り組む事業者を積極的に支援したい。

議員 物価高対策の波佐見町プレミアム商品券事業について、事業費の内訳や一次と追加販売の状況は。

町長 事業費は総額1億2,680万円。内訳として東彼商工会への委託料が、商品券の発行業務を含め1億2,546万円、郵便料金等の町の事務経費が134万円。一次販売額は1億8,678万円となり、追加販売は申し込み者1,965世帯に販売予定。



プレミアム商品券取扱店

町立小学校の適正規模・適正配置及び施設整備等については以前から検討されている。

議員 東小学校に関する今後の総合的な計画について将来の児童数予測や地域活性化といった総合的な観点から学校再編による統廃合などの計画は。

教育長 現時点では計画はない。令和7年7月31日現在、東小学校の児童数は126名。今後7年間の児童の予測としては、令和8年度は119人、9年度は130人、10年度は121人、11年度は119人、12年度は132人、13年度は125人、14年度は115人。今後も若干の増減はあるものの児童数は横ばいの状態が続く見込みだが、動向を注視しながら地域活性化や公共施設の適正維持管理といった総合的な観点を踏まえ適切な学校運営を検討する。

観光面や波佐見焼の認知度が飛躍的に高くなり、観光客や訪問者が増加している。

議員 観光客と町民の双方に配慮して安全、安心、かつ便利に観光できる事業やインフラ整備等の計画は。

町長 観光施策は、官民協力しながら観光施設の魅力向上や体験型観光メニューの構築などを進めている。主な取り組みは、基幹産業である窯業と農業、温泉をベースにした体験型観光プログラム「とうのう」や漫画アニメツアーリズムの取り組みとして、漫画「青の花 器の森」周遊スタンプラリーなどを開催するなど、体験メニューの造成や波佐見焼の購買層に訴求する観光商品開発を行い波佐見焼認知度向上と相まって観光客数も回復している。今年度は、新たにインバウンド需要の開拓を目指し県の支援を受け情報発信や受け入れ態勢の整備など事業を行う。



住んでよし、訪れてよしの波佐見町。プレミアム商品券事業は物価上昇に対応して大反響。消費喚起と地域経済活性化に高評価。



高校生支援として交通費助成を



町長 現段階では検討していない

横山 聖代 議員

高校へ進学する多くの生徒は町外の学校へ進学している。通学費等の負担が大きくなり、家庭の経済力により学びの機会や進路が左右される問題につながりかねない。

議員 高校生に対する通学費助成等の経済的支援はできないか。

町長 長崎県では一定の条件のもと、交通費助成がある。国では授業料の軽減策として、2025年度から公立、私立問わず年収制限なしで118,800円の助成があり、私立の場合、2026年度から年収制限なしで457,000円の助成が検討されている。

国、県により、高校生の保護者に対する支援が充実しているため、町単独として現段階では検討していない。

議員 本町の高校生は、8割～9割が町外の高校に進学している。転出抑制のためにも交通費支援が必要と考えるが。

町長 高校に進学せずに就職される方との平等性の問題もあるため、検討していない。

年度	R6	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27
卒業生数	134	123	136	142	140	133	129	119	166	138
波佐見高校進学者数	13	19	26	17	18	23	19	18	40	36
波佐見高校進学者率	9%	15%	19%	11%	12%	17%	14%	15%	24%	26%
川棚高校進学者数	10	19	18	17	15	16	13	21	29	17
有田工業進学者数	8	16	11	7	10	10	19	12	13	20
波高、川高、有工進学者率	23%	43%	40%	28%	30%	36%	39%	42%	49%	52%

波佐見中学校 学校要覧より

議員 ひとり親世帯等で経済的に困難を抱える家庭に対して、特定の支援を行う考えはないか。

町長 町独自に新たな支援制度を創設することは、現在の制度設計上、不公平性や財政上の制約から困難である。

議員 高校生を持つ全世帯を対象とした普遍的な支援のあり方についての考えは。

町長 義務教育を卒業した高校生の保護者への

支援については、国策等で様々な支援があるため、町単独では考えていない。

議員 本町の世帯年収500万円未満は7割強、中でも300万円未満は4割強であることに鑑み、高校生の保護者の意見及び入学時や月々の費用を見てどう思うか。

町長 所得が上がらない状況の中で負担だけが増え、高校生を持つ保護者の方は大変と理解はしている。ただ、本町の世帯年収が少ないということは、本町に入ってくる税収も少ないことになる。限られた予算の中、町がやるべき義務教育段階の児童生徒に対しては、支援をしっかりとやっていき、今後、高校生を対象とすることがあれば検討したい。

教育長 保護者の負担が増えている現状を考えたとき、どのような支援を行ったほうがよいのか検討の余地はある。

		私立							
		日大（寮）	日大	聖和	創成館	鎮西	九文	向陽	
入学時	入学金	約	133,000	133,000	120,000	110,000	120,000	120,000	140,000
	制服代	約	100,000	200,000	100,000	100,000	100,000	100,000	51,000
	その他諸経費	約		100,000	100,000		200,000	250,000	
合計			233,000	333,000	320,000	210,000	220,000	420,000	441,000
月額	寮費 消費、光熱費込	約	130,000	毎月の総額	毎月の総額	毎月の総額	毎月の総額	毎月の総額	毎月の総額
	授業料	約	33,200						
	校納金 教材費、維持費等	約	15,000	40,000	36,000	50,000	38,000	55,000	48,400
	その他維持費	約							
	交通費	約		30,000	24,000	20,000	12,000	20,200	10,000
	部活動費	約	6,600	6,600	5,000	6,600		3,000	8,000
	合計		184,800	76,600	65,000	76,600	50,000	78,200	66,400
		県立						国立	
		南高	東翔	波佐見	川棚	有工	総額	高専	
入学時	入学金	約	5,550	5,550	5,550	5,550		84,600	
	制服代	約	100,000	80,000	100,000	100,000		113,000	
	その他諸経費	約	116,000	25,000	50,000	27,450		42,000	
合計			221,550	110,550	155,550	133,000	150,000	239,600	
月額	寮費 消費、光熱費込	約	毎月の総額	毎月の総額			毎月の総額	50,000	
	授業料	約							
	校納金 教材費、維持費等	約	15,000	20,000	2,000	2,880	15,000	19,550	
	その他維持費	約							
	交通費	約	21,000	20,000		20,000			
	部活動費	約					9,000	1,000	
	合計		36,000	40,000	2,000	22,880	24,000	70,550	

保護者聞き取り調査より



小さな町がする施策を、県・国が倣い、全国に広がっていてもいいのにと考えてならない。





2学期の始業はなぜ早まったのか

教育長 「絆の日」3日分と春休み2日分を早めた

岡村真由美 議員

幸いなことに本町では深刻な水不足に苦しむ年が少ないが、日本各地の異常気象に起因する災害を目にすると他所事ではない。

議員 西前寺橋近くにある堰が破損したが。

町長 県管理河川であるため県担当課と協議し8月28日には撤去された。現在は水源として使用する水利組合がなく、現状のまま様子を見ていく。



老朽化し壊れた堰板

議員 町ではどんな渇水対策を講じているか。

町長 田んぼに水を汲み上げる水路やポンプ施設の補修費等の補助を行っている。

「絆の日」については、教育関係の経験豊富な議員3名が、3年連続して見直しや保護者の意見を反映した検証を求めてきたにもかかわらず、来年度も引き続き実施されようとしている。

議員 「絆の日」についての見解は。

町長 「教育委員会で十分協議されたものと理解し、尊重したい」という考えに変わりはない。

議員 なぜ早々に、継続実施を判断したか。

教育長 不安視する保護者の声には、学校を開放したり体験学習を実施するなどして改善し、対応を行った。今後は教職員や支援員からの声を詳細に分析して企画運営に反映させ、質的な向上を図っていく考えである。

議員 有田町でも行われた試みか。県内また近隣で同様の休日を設定する動きが出てきているか。

教育長 有田町では過去に行ったと記憶している。他の市町の学校では見られない。

議員 気候が良く学習もはかどる4月と5月は、どの学年どんな学校においても学習の入門期として大変重要な時期と考える。先生方も全員賛同しているか。

教育長 校長会、教頭会の賛同は得ている。

日	月	火	水	木	金	土
30	31	4/1	2	3	4	5
6	7	8	9	入学式	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	③①	②	3	
4	5	6	7	8	9	10

小学1年生の4月中の登校日

議員 猛暑が続く中、2学期の開始が早まった。何か新たに熱中症予防の対策を講じているか。

教育長 最初の1週間は授業を昼までとし、給食を食べて下校させ、徐々に学校生活に馴れさせるようにしている。

県では県立高校再編の大綱策定に向けて準備が着々と進められている。8月19日、町と議会は連名で波佐見高校の存続を求める要望書の提出を行った。

議員 県側の反応はどうだったか。

町長 「数合わせの統廃合ではなく新しい高校を創る位の気概で臨んでいる」との発言があった。また本町の支援制度について感謝の言葉があり、「さらに地域連携を進めてほしい」との要望もあった。選ばれる魅力ある学校づくりに町がどう関われるか検討したい。



「絆の日」は多額の費用を投じた事業ではありませんが、見えない形で町民に多大な経済的な損失も与えてはいないでしょうか。基礎学力は大丈夫？



水道水の水源の確保はできているか

町長 確保はできているが安定した水源は限られている

前田 博司 議員



「水道」は私たちの生活に欠かせないインフラの一つである。

近年、人口減少や景気低迷、節水意識の浸透などにより、水道料金収入は減少傾向にある。それに加え施設の老朽化、資材や電力料金の高騰などの事業費用の増加もあり、水道事業を継続していくための課題が山積している。

議員 全国的な少雨による水不足の報道もあっているが、水道の水源確保状況はどうか。

町長 本町の水道水源は、河川の表流水、地下水、農業用のため池などがあり、総量では計画水量を確保している。

しかしいずれも規模が小さく、年間を通じ安定して取水できる水源は限られている。

新たな水源については、事業経営の中長期的な観点の中で、今後の水需要と供給のバランスを考慮し、検討する必要があると考えている。

議員 老朽化した水道管や各種施設の計画的な更新は行われているか。

町長 配水管の基幹管路については、耐用年数を基準にしながら管路更新を計画的に行っている。併せて、耐震性の高い管種や継ぎ手を採用し、安定給水への信頼度を高めるとともに、計画的な老朽管の更新を実施し、漏水を防ぐことで安定供給に努めている。

また、機械、電機、計装設備については耐用年数が短いため、点検や修繕を行いながら定期的な更新に努めている。



水道水(イメージ)

議員 非常時への対応や備えは十分か。また、最も重点を置いていることは何か。

町長 非常時の状況にもよるが、町内4つの浄水場のうち3つの浄水場の給水区域は接続しており、非常時にはバルブ操作による給水区域の仕切り変更などで連携が可能である。

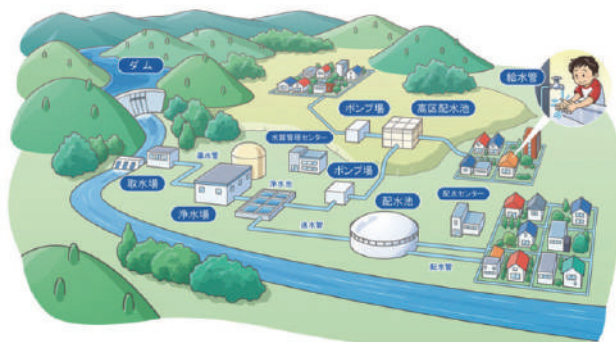
非常時の対応については住民への周知や給水区域でのバルブ操作、水道水の配布など様々な業務があり、速やかに復旧を進める必要があることから、職員の対応力の向上が何より重要と考えている。

議員 水道管等が被災した場合、配水池（貯水槽）の重要性が増すと思う。緊急遮断弁の設置が必要ではないか。

町長 現在、通常のバルブはあるが、非常時には現地に行き操作しないとイケない状況である。今後、調査・研究を重ね、地震などの対応に備えていきたい。

議員 水道料金の改定は、水道事業を持続可能なものにしていくにはどうしても避けて通れないものと思う。料金改定に当たってはどのような手法をとるのか。

町長 水道料金については金額を十分精査して提案する形になるが、そこにおいては審議会等を設置し、その中で審議をいただくという進め方になると考えている。



水道施設(イメージ)

つぶやき

一時たりとも絶やすことのできない水道。水源があまり豊富ではない状況の中で日々努力されていることに感謝するとともに、本町の水道事業が持続可能なものとなるように願うものです。





利用休止の農業用水路の安全対策は

脇坂 正孝 議員

町長 埋込み、落水施設等がある

甲長野郷の平木場溜池から乙長野郷今熊地区に至る農業用水路は、近年利用が休止され、管理が行き届かなくなっている。流域には民家も多く、このままでは豪雨時の氾濫や農業用水路の崩壊が懸念される。

議員 農業用水路の所有権はどこにあるのか。

町長 原則として町にある。

議員 水利が不用になったら、保全管理は誰がするのか。

町長 草刈り・清掃・修繕など通常の維持管理は、地域の方々が共同で行うようお願いしている。



流域が長い当農業用水路の経路略図

議員 民家や田畑に被害が発生した場合、復旧工事はどうするのか。

町長 国の補助による災害復旧工事を基本に、小規模な災害は町単独事業による補助対象事業で、休耕でも補助事業等に対応できる見込みが高い。農地として活用見込みがなければ、町の事業としては困難。

議員 農業用水路を使用しなくなった場合、維持管理はどうするのか。

町長 地域が一緒になって管理してほしい。多面的事業交付金の活用は可能である。

議員 放置すると、防災上の問題が大きい。防災の観点からどう対応するのか。

町長 用途廃止となれば、水路の埋込みや落水施設の敷設、放置が考えられるが、防災面で危ない部分は適正な手立てをとる必要があると思う。



土砂や落葉で埋没している水路

令和8年は本町誕生70周年を迎える。

議員 記念式典の実施時期は。

町長 6月1日前後の日曜日を検討している。

議員 記念事業はどうか。

町長 記念誌の作成、独自のイベント、講演会などを検討している。

議員 中学生を対象に海外派遣を実施してはどうか。

町長 課題も大きいので、一つの案として検討する。

議員 全国ネットによる公開放送の誘致はどうか。

町長 現在、NHKに申請中で当落の結果は8年2月頃の見込みである。



当農業用水路は、長い流域を少数の関係者で管理されていたが、水田の休耕とともに利用も休止された。豪雨時には多大な災害が予想されるため、普段からの巡視や保守等、防災対策が必要である。



総合運動公園の調査・研究は

教育長 慎重に議論を重ねていく

議員

福田 勝也 議員



自治会活動・運営については、少子高齢化による人口減少、自治会への加入率の低下、自治会行事における参加者の減少による組織率の低下などから、今後、大きな影響がある。

議員 自治会活動・運営に対する課題にはどのようなものがあるか。

町長 自治会加入率については、年々低下傾向で、平成5年度の97.9%から30年経過した令和5年度には81.6%と大幅に低下しており、大きな課題である。

また、役員の高齢化・なり手不足、地域行事への負担感や束縛などマイナス要因が多々あり課題と考える。

議員 また、その対策はどのように考えるか。

町長 時代の変遷、コロナ禍もあり自治会に対する価値観や住民の皆様の考えも変化が起きている。

方向性としては、現存の自治会制度はしっかり支援をしながら維持する方向と、社会現象による変化に柔軟に対応していけるように、先進自治体の事例も参考に、今後あるべき姿や本町にふさわしい自治会制度のあり方について研究を進めていきたい。

総合運動公園や図書館については、その整備を望む声が多いことから、早期整備と機能充実について、町は今後の方向性を検討すべき時期に来ている。

議員 総合文化会館の管理・運営が教育委員会から委託業者となったが、利活用などの問題点はないか。

教育長 窓口対応に関するご指摘をいただいている。密な連携体制の構築とフィードバック体制の強化を図ってきた。

議員 図書館の整備については、どのように計画されているか。

教育長 利用者の皆様がより快適・安全・便利に文化活動を楽しめるよう、施設の機能向上を目的に、図書館の大規模修繕に伴う基本計画及び実施計画策定のため予算を計上している。

令和7年度、8年度の2年間で詳細な計画を策

定し、9年度から事業着手を目指していきたい。



図書館を主として大規模改修予定の総合文化会館

議員 総合運動公園の早期建設について、調査・研究を行っているか。

教育長 近隣自治体の総合運動公園や野球場を対象とした行政視察を実施した。

庁舎内に検討委員会を立ち上げ、より専門的かつ多角的な視点から検討を進めていく。

本町の財政状況を考慮すると厳しいが、町民皆さまが求める機能を備え、長期的に持続可能な運営モデルを構築できるよう慎重に議論を重ねていきたい。



総合運動公園の実現を！

つぶやき

総合運動公園の整備には、これまで幾度となく調査・研究を要望してきた。

ここにきてやっと動いて、一歩前進したと感じた。これからの方向性に注視していきたい。





事業評価でメリハリのある予算を

町長 事業評価で行政の質を高めたい

三石 孝 議員

急速に進む少子高齢化の時代、人手不足に対応した行政のコンパクト化が求められている。将来のまちづくりに必要とされる業務が、「事業評価」である。

議員 事業評価とは何か。

町長 政策や事務事業について、必要性・効果性・効率性の観点から評価を行い、政策決定や予算編成等に反映していく制度である。

議員 必要性はどうか。

町長 事業の見直しや改善につなげるとともに、評価結果を踏まえた予算編成を行うために必要である。

議員 実施時期と担当部署はどうか。

町長 決算時の8月頃、担当は企画情報課と税務財政課となる。

議員 その内容と効果は。

町長 「事務事業評価表」に基づき、事務事業の目的、妥当性、有効性、効率性、公平性、改革の方向性などを原課で行い二次の評価を客観的に行うことにより、可視性や透明性もあり適正な評価ができる。

議員 事業評価と総合計画との関係はどうか。

町長 本町の最上位の計画が総合計画であり、次に基本計画を策定し、施策の展開を図っている。二つの計画に基づいた具体的な個別事業については、振興実施計画や事業評価の対象となり連動した取組みとなる。

議員 事業評価と行財政改革との関係はどうか。

町長 行財政改革は、限られた経営資源を最大限に活用し、効率的で効果的に事務を進め、財政健全化と住民サービスの両立を目指す取組みである。

事務の効率化と住民サービスの向上を図る点は共通している。

議員 事業評価とDX化との関係はどうか。

町長 業務の見直しや効率化を図り行政のスリム化を行うことが重要であり、事務事業評価とも連動する部分がある。

議員 事業評価の現状と今後の在り方はどうか。

町長 現在、個別の事務事業評価は実施していない。予算と連動したチェックを行っているが、事業評価としては弱いものがある。今後は、適切な事業評価を行い、各課の業務の見直しや廃止・継続といったチェックがしっかり機能するように考えたい。

議員 事業評価の対象となる事業数はどれくらいか。

町長 毎年度の全事業数は約280事業で、国県事業等を除くとおおむね140～150事業が対象となる。

議員 現在、事業評価はなされていないが、なぜか。

町長 機構改革前は、企画財政課長が予算前の振興実施計画の中で行っていたが、機構改革後は企画と財政が分かれ、その仕組みが曖昧になってしまった。

議員 川棚町は、副町長と総務・企画・財政の課長の4名で事業評価審査会を作り、結果をホームページで公開している。本町はどうか。

町長 他の自治体を参考に波佐見町に合うような状況で検討したい。

議員 例えば、事業評価を南地区のキャンプ施設・運営で考えると、まず施設の建設費や利用者数はどうか。

町長 建設費は5,400万円で、利用者は令和6年10月から令和7年3月までで6件である。

議員 施設に行ってみると駐車場は未整備の上トイレ等の清掃も不十分である。テントの表面はカビだらけでシャワー施設もない。テント内は、カビ対策でエアコンが常時稼働している。テントの耐用年数はあと6年である。管理費を含めランニングコストはどうか。

町長 開業して1年経っていないのではっきりした数字が分からないが、改善しなければならないところが非常に大きい。事業評価をしなければならない。

議員 川棚町では、新規事業は、おおむね3年をめどに継続・廃止等の評価をされる。その点、教育委員会の「絆の日」も3年が経過した。事業として、関係者（保護者）にアンケートを実施したらどうか。

教育長 学校関係者と評価について研究協議を行っている。アンケートは行わず、聞き取りや子どもたちの声等の情報を共有している。



町長は「入りを量りて出を制す」と口にする。「出」は事業評価なしで「継続」する。

これも100億円超の予算が生み出す功罪か。



波佐見焼産業の未来と継続を

町長 官民一体となり取り組む

北村 清美 議員



波佐見焼は地場産業として機能してきたが、ここにきて原料である陶土の大幅な値上げや、さまざまな生産資材の高騰、人手不足、そして納期遅れなどの負のスパイラルが止まらない。

状況は最悪である。大幅に値上げした商品は当然売れないし、売れても納期遅れで提供できない状況もある。悪循環が増すことで大幅な「売り上げ減」が見込まれることは明白である。こうなると「波佐見焼」は地場産業として成り立たなくなり、まさしく危機的状況に陥る。だからこそ、官民一体となりこの未曾有の苦境を乗り越え、「波佐見焼なくして波佐見なし」との思いを肝に命じ、未来に向かって進まなければならない。

議員 町は支援や対策をどのように考えているか。

町長 社会情勢の変化を背景に大変厳しい状況である。

この状況が今後も続けば、波佐見焼の産地が立ち行かなくなるという危機感を感じている。先般、窯業各組合と意見交換を行い、課題や方向性について確認した。様々な意見があったが、喫緊の課題は生地の調達が困難なことであり、生産に大きく影響を与えている。生地事業者の環境改善・人材確保への課題を踏まえ、効果的な支援策を検討する。

また、海外への販路拡大や人材確保に対する支援なども同様に検討している。



昨年度のテーブルウェアフェスティバル



昨年度のテーブルウェアフェスティバル

議員 官民一体で産業を永續させる30・50年先を見据えた抜本的な政策「波佐見焼未来共創コンソーシアム（共同研究体）会議」（仮称）を早急に創設すべきではないか。

町長 窯業各団体で課題解決のため協議会が立ち上げられ、業界が一丸となって議論を深める場ができた。官民一体でこの難局を乗り越えなければならないと考えている。

この波佐見焼未来共創コンソーシアム会議（仮称）の創設を新たに立ち上げるよりも、今回業界団体で組織された協議会や、本町や長崎県も参画している長崎県陶磁器活性化推進本部委員会での連携を密にしながら、現状や課題を共有し、解決策を一体となって検討し取り組んでいく体制を強化していきたい。



施釉ロボット

つぶやき

この課題を3人の議員が取り上げ、町長は「官民一体となり取り組む」と表明された。

これからの一連の対策が未来の町民皆様からどう評価されるかが楽しみです。



傍聴者の声



❖ いただいたご意見を紹介します。❖

- ①説明が質問より長い方が多い。(50代)
- ②今まで関心がなかったが、細かい議論がされていた。(60代)
- ③初めて傍聴したが、様々な課題や要望について知ることができ良かった。(70代)
- ④傍聴席の右側にもモニターがあるといい。(70代)
- ⑤傍聴席でスマホを使って町のホームページを見たいので認めてほしい。(40代)
…音の出ない設定であれば、閲覧は可能です。
- ⑥一般質問のスライド資料は公開されないのか。(40代)
…スライドは議員の個人情報であるため、公開は予定していません。
- ⑦せっかくの資料が小さくて見づらい。(60代)
…できるだけ大きくするよう、心がけます。



訂正

No.172(8月号)の文章に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

14頁右段【誤】健闘、醸成助成 → 【正】検討、助成

15頁右段【誤】皆実地区 → 【正】南地区



ご意見QRコード

「議会だより」へ
のご意見をお待
ちしています。

次回定例会は12月4日から12月11日までを予定しています。

今年度秋に「議員と語ろう会」を開催予定でしたが、議会運営委員会で協議した結果、今年度は「議会モニター会議」を実施することとし、来年度に実施することになりました。

編集後記

今年も暑い夏が長く続きました。本誌が皆様のお手元に届くころには涼しくなっているといいのですが。

本誌の編集を行う上で、皆様が読みやすい紙面になることを第一に考えています。しかし見方を変えたと、議会や議員活動そのものが魅力あるものでなければならないのだと今更ながら思われます。

今後もこのことを肝に銘じ、読みたいくなる、魅力ある「議会だより」をお届けします。

(前田 博司)

「議会だより」編集委員

委員長	岡村真由美
副委員長	澤田昭則
委員	前田博司
	脇坂正孝
	三石孝孝

発行責任者

議長 尾上和孝